

CREATe Asia Alliance Meeting 参加報告

Report of CREATe Asia Alliance Meeting

○ (一社) 日本リハビリテーション工学協会 剣持 悟

キーワード：国際連携、データベース、福祉用具

1. はじめに

CREATe Asia の正式名称は the Coalition on Rehabilitation Engineering & Assistive Technology of Asia で、その母体となっているのは、タイとシンガポールで交互に開催されていた i-CREATe という学術会議である。CREATe Asia は 2015 年 8 月 13 日にシンガポールで 13 団体によって結成され (図 1)、その調印式にはタイのシリントン王女を招いて執り行われた。シンガポール、タイ、オーストラリア、中国、日本、ニュージーランド、韓国、香港 (中国)、台湾、マレーシアの 10 カ国からの参加で、必ずしも一国一団体とはなっていないが、議決する場合は一国一票となっている。私たち、日本リハビリテーション工学協会も、兵庫県立福祉のまちづくり研究所とともに加盟している。



図 1 CREATe Asia 調印式
(i-CREATe2016 ホームページより引用。)

2. 会議内容

会議は 2016 年 7 月 25 日 16 時からバンコク (タイ) のクイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センターで行われ、当協会から筆者が参加した。参加者は加盟 13 団体から 10 名、招待者 10 名で総勢 20 名程度で 2 時間半ほど行われた (図 2)。会議

の議題は、CREATe Asia のコンセプトや、枠組み、今までのあゆみについて説明があった後、検討事項として、常設事務局に関する事、国際データベースに関する事が話し合われた。次回の i-CREATe2017 開催地 (神戸) の紹介を大会長である兵庫県福祉のまちづくり研究所の陳所長が行い、最後に次々回大会の i-CREATe2018 の開催地に中国 (上海) が選ばれた。

世界的に見れば、WHO を中心として福祉用具のカテゴリー分け、調査、分析が始まり、普及に向けて枠組み作りが進んでいる。アジアをどのように取りまとめていくのか注目が集まっていると言える。



図 2 CREATe Asia 会議出席メンバー

3. まとめ

個人的な感想になるが、CREATe Asia の推進に関しては、タイのシリントン王女様の力添えが大きいことも、このミーティングに出て分かったことである。タイの福祉行政に積極的に関わり、一人一人の関係者、学生に声をかける姿はマスコミでも多数放映され、国民に希望を与えているのではないかと推察される。来年の神戸大会はリハ工学カンファレンスと同時開催である。今回得た知見を参考にしたい。